

構造システム社製「BUS-6」ご利用のお客様 各位

2018 年 3 月 30 日
改訂 2022 年 8 月 1 日
改訂 2023 年 10 月 3 日
岡 部 株 式 会 社
旭化成建材株式会社

BUS-6 の柱脚検討用データの注意事項

構造システム社製構造計算プログラム BUS-6 において中間節点の生成を「考慮しない」設定とした場合の柱脚検討用データを、柱脚検討ソフト BTM（以下「BTM」という）では読み込めないようにしている件について以下にご説明いたします。

BUS-6 は、柱脚部へのブレースの鉛直方向偏心接合のモデル化において、[モデル化条件-共通]項目にて指定した部材中間の節点を必要とします。

しかしながら、BUS-6 では中間節点を生成する指定の有無に関わらず、ブレース取り付け位置の鉛直方向の偏心距離が入力できるようになっています。BUS-6 で中間節点を生成せずにブレース鉛直偏心距離を入力した場合に、BUS-6 が BTM に出力する柱脚検討用データにおいて、柱脚に作用する応力の出力内容が BTM における処理内容と一致しないケースがあることがわかりました。そのような応力の不一致を避けるために、中間節点の生成を「考慮しない」設定とした場合の柱脚検討用データは、BTM では読み込めないようにしております。

BUS-6 からの柱脚検討用データを用いて BTM で応力確認を行う際は、BUS-6 側において中間節点の生成は「考慮する」設定で柱脚検討を行ってくださいようお願いいたします。

BUS-6 側のデフォルト設定では中間節点の生成は「考慮する」設定ですが、何らかの意図があり中間節点の生成の設定を変更し、BUS-6 の柱脚検討用データが BTM で読み込めない場合は、その意図によって対応を検討いたしますので、ご相談くださいますようお願いいたします。

以上